

柔道整復師から学ぶ

コツコツ健康術

第四回 ため息と吐息

タ
タ
タ

ある歌に「ため息つけばそれで済む」という歌詞があります。人は日々、大なり小なりの精神的ストレスを受けていますので、誰もいないところでため息をついて、ストレスを緩和するのは必要なことかもしれません。一方、吐息は、ほつとしたときや何かをうまく乗り切れたときに、ため息よりも少し小さく吐くイメージがありますね。

柔道整復という日本古来の伝

実は柔道整復師が、日々の施術で患者さんに接する時間は意外に長く、ご家族のこと、職場や学校のこと、ささいな悩みなど、さりげない言葉のやりとりの中で痛みの原因を発見することもあります。同時に、患者さんが日常生活で気をつけなければならぬことに気づくときも



(総務部長 豊嶋良一)

統医療と何気ない会話によって、患者さんが身体の痛みだけではなく、心の痛みも緩和されたのはと感じたとき、実は施術者もほつとしているのです。

待合室で痛みをこらえながらついたため息が、お帰りの際には穏やかな吐息に変わりますよう…。そんな想いを手のぬくもりと会話に代えて、日々の施術にあたっています。